

平成 29 年第 1 回定例会 予算等審査特別委員会市民費で質問 <質問答弁要旨> 2017 年 2 月 24 日  
(金)

24, 2017 17:33

<質問答弁要旨>

## 1 本市のスポーツ施設整備について

Q 1 昨年 2 月の定例会で私は、本市には、政令市で唯一公認プールがない旨お話しをし、新設ではなくても、既存の 25m のプールの改修という手法を提案させて頂いた。その際、今年度行っているスポーツ推進計画の見直しの中で整理するとの答弁があったが、どのように整理されているのか？

A 1 今回のスポーツ推進計画の見直しでは、スポーツ施設の整備につきましては、設置から 30 年以上経過している施設が多いことから、計画保全による施設の長寿命化を主とした効率的かつ効果的な修繕計画の策定を検討することと整理いたしました。

来年度、当該計画を策定する中で、プールの改修工事を含め、個別施設の改修方針を定めていくこととしております。

## 2 2020 東京オリパラに向けたホストタウン事業の取り組みについて

Q 1 政府が 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて取り組む「ホストタウン構想」について、昨年 1 月、本市は、イタリア国のホストタウンとして内閣府に登録され、キャンプ地誘致をはじめ、人的・文化的・経済的な相互交流を図ろうとしていると伺っている。登録から 1 年が経過したが、具体的な取り組み状況を伺う。

A 1 ホストタウン構想は、全国の自治体が、大会参加国を歓迎することを目的とし、相手国に登録し相互交流を行うものであります。

昨年 11 月には、ホストタウン事業のキックオフイベントとして、イタリア大使館等のご協力のもと、イタリアの文化を幅広く紹介し、市民の皆様にイタリアを身近に感じていただくことを目的とするイベント「アーモ・イタリア」を開催し、多くの方々にご来場いただきました。

また、本年 1 月には各競技団体及びイタリアオリンピック委員会を訪問し、青少年交流やキャンプ地誘致について協議を行ってまいったところでございます。

Q 2 イタリア訪問はしたのは、誰か？

A 2 文化観光局長と私（スポーツ振興課長）でございます。

Q 3 1 月に各競技連盟を訪問した局長の所感を伺う。

A 3 本年の 1 月に私と、スポーツ振興課長の 2 人で、イタリアに行っていました。イタリアでは、サッカー連盟、バレーボール連盟、野球・ソフトボール連盟、そしてイタリアのオリンピック委員会の 4 団体をまわってきたところでございます。

3 競技団体との間におきましては、来年度から、今年からでございますけれども、どのような具体的な交流事業を行うかということについて提案をしまいいりました。青少年を通じた交流事業、具体的な提案を行ったものに対して、向こうからも様々な提案がありまして、前向きに検討していきたいといったようなお返事をいただいたところでございます。

それから、イタリアオリンピック委員会とは、キャンプ誘致について、各競技団体と我々が色々話をしているということについて、ご報告を申し上げて、その上で、キャンプ誘致についていろいろとお取り計らいをいただきたいということを申し上げて参りました。

先方の方からは、できれば、全体、イタリアの競技を日本の都市の中で全部持ってきて、決勝に進んだ種目については、なるべく一つの都市でキャンプを行いたいといったようなお話もありましたので、我々、スポーツコミッションせんだいといった取り組みで、広域的に様々な取り組みを進めているところでございますので、そういった枠組みを活用しながら、先ほど申し上げました、サッカー、バレーボール、ソフトボールに限らず幅広く、競技の受け入れについて検討していきたいといったようなことを、現在感じて、そういったような動きを始めているところでございます。

Q 4 一昨年7月に、伊藤副市長もイタリアサッカー競技連盟を訪問したと伺っているが、伊藤副市長の所感も伺う。

A 4 一昨年の7月に慶長遣欧使節団 400 年の関係でイタリアに伺いました。その際、その仕事だけで参るというよりは他のこともしてみたいと思ひまして、イタリアのサッカー連盟を訪れました。その時はまだ我々がホストタウンに登録される前でしたので、最もなじみのあるサッカーのキャンプを仙台に誘致できればという観点からサッカー連盟に行ってきたものであります。

その際、向こうの CEO、ミケーレ・ウーバさんという方ですが、わざわざ出てきていただきまして、親しく懇談させていただきました。我々の方からは、本市に滞在すればこういう良いことがありますよ、施設も整っておりますよといったようなお話を申し上げたところ、先方は 2002 年のワールドカップでフル代表がキャンプをしたということについて、その時の仙台のおもてなしが大変素晴らしかったと、我々はそれを絶対忘れてはいないと、そういう意味で、今後、青少年交流等といったことについてどんどん進めていって、キャンプの際には前向きに考えたいとおっしゃっていただきました。

我々も、これから、アーモ・イタリアを含む、イタリアとの交流、文化、食べ物、いろいろありますけれども、そういったものを続けていきながら、ホストタウンとして、しっかり、イタリアの気持ちをつかむように、やってまいりたい、そのように思うところであります。

Q 5 29 年度の取り組み内容は？東京オリンピック・パラリンピック関連の予算、29,298 千円の中身と併せて伺う。

A 5 スポーツを通じた相互交流事業等の実施のため、2,000 万円を計上しております。

具体的な取組みといたしましては、サッカー及びバレーボールを基軸とし、青少年の相互訪問による、交流の促進を図ることを想定しております。さらに、広くイタリアの文化等をご紹介するイベント等の開催につきましても、本年度に引き続き、検討して参ります。

また、事前キャンプ地誘致のため、在イタリアの競技団体等と引き続き協議を行うとともに、各競技団体による本市のスポーツ施設や宿泊施設等を視察いただく取り組みを進めるため、929 万 8 千円を計上し

ております。

Q 6 キャンプ地誘致は、今後事務方でいろいろとやり取りを進めていくとは思いますが、ある程度の段階まで進んでいけば、市長のトップセールスが必要と考えるが、如何か？

A 6 ただ今、伊藤副市長、文化観光局長からのご答弁申し上げましたとおり、イタリア共和国のオリンピック委員会、各スポーツ団体とは、ただ今精力的に、様々な情報の交換と交渉を進めているところでございます。

今後、事態がさらに進展をいたしまして、必要な場合には、私もまたそれらの交渉に当たってまいる場面もあろうかと、こういう風に思っているところでございます。

Q 7 イタリアとの交流については、長年、市民レベルで交流を進める団体があり、当該団体との連携を是非すすめるべきと考えるが如何か？

A 7 本市とイタリアとの間には、2002 年サッカーワールドカップ開催時のキャンプにおけるチームと市民の皆様の交流に象徴される、友好の歴史があり、これを支えてこられた市民の皆様との連携が大変重要であると認識しております。

昨年 11 月に実施したキックオフイベント「アーモ・イタリア」にも、仙台日伊協会の皆様等にご来場いただいておりますが、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、同協会や、宮城・ローマ交流倶楽部、フォルツァ・アズーリクラブ等の皆様との連携した取組みにより、本市とイタリアの交流がさらに深まるよう、努めて参りたいと考えております。